

ヒューマン・ケア科学学位プログラム (3年制博士課程)

Doctoral Program in Human Care Science

授与する学位の名称	博士(ヒューマン・ケア科学) [Doctor of Philosophy in Human Care Science]	
人材養成目的	教育学、心理学、福祉学、医学、看護学、保健学、等の専門領域の学問融合の観点から総合的・学際的にヒューマン・ケア、対人支援に関する課題を解明し、創造的に発展させる能力、実践的応用力を備えた大学教員、研究者、高度専門職業人教育者を養成する。	
養成する人材像	人々の抱える問題・課題に関する高度専門的知識を備え、課題解明に関する研究能力と技術、人へのケアと支援に関する方法・技術、その指導に関する高度専門的知識と技術を身につけた人材	
修了後の進路	国内外の大学および研究機関のヒューマン・ケア科学関連諸科学領域における専門教育研究者、国際機関の研究者、支援に関わる専門機関の指導者・実践者	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の創成力: 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	① 新たな知の創成といえる研究成果等があるか ② 人類社会の未来に資する知を創成することが期待できるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
2. マネジメント能力: 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	① 重要な課題に対して長期的な計画を立て、的確に実行することができるか ② 専門分野以外においても課題を発見し、俯瞰的な視野から解決する能力はあるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
3. コミュニケーション能力: 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	① 異分野の研究者や研究者以外の人に対して、研究内容や専門知識の本質を分かりやすく論理的に説明することができるか ② 専門分野の研究者等に自分の研究成果を積極的に伝えるとき、質問に的確に答えることができるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
4. リーダーシップ力: リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	① 魅力的かつ説得力のある目標を設定することができるか ② 目標を実現するための体制を構築し、リーダーとして目的を達成する能力があるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、TF、TA、国際セミナー参加、成果発表会など
5. 国際性: 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する高い意識と意欲があるか ② 国際的な情報収集や行動に十分な語学力を有するか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、英語論文投稿など
6. 研究力: ヒューマン・ケア科学分野における最新の専門知識に基づいて現代的・将来的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	① 最新の専門知識に基づき、ヒューマン・ケア科学分野における現代的・将来的課題を設定できるか ② 設定した研究課題に対して、自立して研究計画を遂行できるか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
7. 専門知識: ヒューマン・ケア科学分野の先端的かつ高度な専門知識、および関連する諸科学の学際的専門知識	① ヒューマン・ケア科学分野の先端的かつ高度な専門知識を有しているか ② 関連する諸科学の学際的専門知識を有しているか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、パブリックヘルスト論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
8. 倫理観: ヒューマン・ケア科学分野の研究者にふさわしい倫理観と倫理知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	① ヒューマン・ケア科学分野に関する深い倫理的知識を持っているか ② 専攻する特定分野に関する倫理観と倫理的知識を持っているか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など
9. 学際的応用力: ヒューマン・ケア科学に係る学際的知識と技術を現代的・将来的課題の解決に応用する力	① ヒューマン・ケア科学の現代的・将来的課題に対して、学際的視点から取り組んでいるか ② ヒューマン・ケア科学の現代的・将来的課題の解決に、学際的・総合的な応用を試みているか	ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ-Ⅲ、パブリックヘルスト論Ⅰ-Ⅲ、ヒューマン・ケア科学演習、ヒューマン・ケア科学特別研究、博士論文作成、学会発表、論文投稿、審査会発表など

学位論文に係る評価の基準	
<p>筑波大学大学院学則に規定する要件を充足した上で、主査1名、副査3名以上で構成する学位論文審査委員会により、学位論文が以下の評価項目を満たす水準であることが確認され、かつ最終試験で合格と判定されること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学際的・複合的な学問領域であるヒューマン・ケア科学において、関連する先行研究を十分にふまえた目的の設定、独創的で新奇性に優れたテーマ設定であること。 2. 研究の背景、目的、方法、結果、考察、結論が論理的な構成で学位論文の形式にまとめられていること。 3. ヒューマン・ケア科学における妥当な研究方法により、社会貢献性の高い成果を得て、人支援、人へのケアにおける課題解決に寄与すると認められること。 4. 研究倫理上の問題がなく公正性が認められること。 	
カリキュラム・ポリシー	
<p>パブリックヘルス学位プログラムと共同して、人間系・体育系・医学医療系の多分野横断の教員によって、ヒューマン・ケア科学に関する学際融合の専門知識、高度な研究能力、倫理観、課題解決能力を養う教育・研究指導を行う。</p>	
教育課程の編成方針	<p>人間系・体育系・医学医療系および国立保健医療科学院の連携教員からなる分野横断の教員構成によって、教育学、心理学、体育科学、保健学、医学、看護学、疫学・統計学など、人間の生活と健康の支援に関わる広範な専門分野の理論や研究法を学ぶとともに、複数の専門分野の教員から研究指導を受ける教育課程を編成する。これにより個人、社会、環境という多角的な視点から「ケア」について研究を行い、ケアの本質的解明と応用を検討する。学際融合の広い視座を身に着けるとともに、ヒューマン・ケア科学に関わる高度な専門研究能力と課題解決能力を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学際横断的な専門基礎科目（「特論」各科目1単位、合計6単位必修）を開設し、人間の生活と健康の支援に関わる広範な分野の理論や研究法を学び、学際融合の視座と専門知識を身に着ける。 ・「ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、ヒューマン・ケア科学の各分野（高齢者ケアリング学、福祉医療学、共生教育学、福祉社会学、臨床心理学、発達臨床心理学、社会精神保健学、ストレスマネジメント）に関わる専門知識を、「パブリックヘルス特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、公衆衛生学の各分野（国際保健学、保健医療政策学、健康社会学、ヘルスサービスリサーチ、生活支援学、運動・栄養学、生涯健康学、疫学・統計学、生活環境学）に関わる専門知識を、それぞれ修得する。 ・専門科目（「演習」「特別研究」各科目3単位、必修6単位）では、「ヒューマン・ケア科学演習」によりヒューマン・ケア科学の専門分野に関する最先端の高度な専門知識を、「ヒューマン・ケア科学特別研究」により論文作成と発表に係る高度な研究手法と倫理観を、それぞれ修得する。さらに、複数の教員から研究指導を受けることにより、学際融合の広い視座にたつ研究能力と課題解決能力を修得する。
学修の方法・プロセス	<p>標準履修年次である3年間の修了（学位取得）をめざし、標準学修課程フローチャートにより計画的・継続的に指導を行う。指導は学際専攻である特徴を活かし複数の教員で指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位取得のプロセスは大まかに 中間審査、予備審査、本審査であり、これらに合格することにより学位取得が認められる。 ・学位取得のためには、基本条件として①必修6単位を含め12単位取得していること、②倫理審査を受けて研究を進めていること、が求められる。 <p>以上を踏まえ、学修課程は具体的に以下のように進められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次は学位論文の研究計画の立案、研究倫理審査を経て研究に着手する。 ・1、2年次に専門基礎科目である「ヒューマン・ケア科学特論Ⅰ～Ⅲ」「パブリックヘルス特論Ⅰ～Ⅲ」（6単位）が必修となっており、ヒューマン・ケア科学に関わる専門的知識と関連する学際的知識を修得する。 ・2年次以降は、専門科目である「ヒューマン・ケア科学演習」、「ヒューマン・ケア科学特別研究」により、専門分野の最先端の知識と研究方法を修得するとともに、指導教員・副指導教員より学位論文作成の指導を受け、学会発表や論文投稿を積極的に進める。 ・中間審査会に合格するまで、3ヶ月毎に学修指導記録（指導教員・副指導教員による学修成果および研究進捗に関する確認と指導の記録）を提出する。 ・中間審査会、予備審査会、学位論文審査会にて審査を受け、合格後は、年度末に開催される博士論文成果発表会においてプレゼンテーションを行い学際的学修成果の発表の場とする。

学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・学修成果と研究進捗について3ヶ月ごとに学修指導記録として提出し、教育会議において各学生の学修・研究の状況を教員間で確認し、評価する。 ・中間審査会は学位プログラムで公開で行い、学位論文の全体計画及び研究内容に関する論理一貫性、研究倫理審査との整合性、研究全体の5割以上の進捗について主査と副査2名で審査する。 ・予備審査会は公開で行い、学位論文としての質や学術論文の投稿、学位論文審査会に進めるか否かについて、中間審査会と同じ主査と副査2名で審査する。 ・学位論文審査会も公開で行い、予備審査会の主査と副査2名、さらに本学位プログラム以外から副査1名を加え、計4名で学際的な視点から適正な審査を行う。
アドミッション・ポリシー	
求める人材	<p>ヒューマン・ケア関連諸科学やその領域の問題に深い関心を持ち、その科学的解明、課題解決に学際的視点から意欲的に取り組む意識を有すること。また高度な専門的知識と技術を通して様々な地球規模の課題解決をめざす人材、国内外で貢献する人材</p>
入学者選抜方針	<p>選抜は、研究・実践・国際連携の能力を中心に、専門および英語の筆記試験、研究計画に基づく口述試験が行われ、総合的に評価する。</p>